

1	音楽研究会				部会記録	
日時	平成29年9月6日					
部会名	歌唱部会			主任	押江 恵 (丸山台小)	
参加数	26名	司会	押江 恵 (丸山台小)		記録	慶長 明代 (川和東小)
研究内容	<p><b>研究部テーマ：子どもの意識の流れを生かし、音楽能力の高まりを目指した授業の在り方</b></p> <p><b>歌唱部会テーマ：子どもが、歌う喜びを感じながら、主体的に表現の高まりをめざしていく歌唱活動</b></p> <p><b>研究仮説：魅力的な教材との出会いを大切に、互いに表現のよさを聴き合い、学び合うことで、どの子どもも歌う喜びを感じながら、表現力を高めることができる。</b></p>					
	<p>1 歌唱・合唱指導の実際 講師 桜岡小学校 学校長 高島典子先生</p> <p>○私たちは日々どんなことに困っているか・・・。</p> <p>○どんな願いをもっているか・・・。どうなってほしいか・・・。</p> <p>そこから、私たちの願いとして</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「歌ってみたい！歌いたい！合唱したい！」という前向きな気持ちを引き出したい、よりよい音楽表現を追求し、音楽的な高まりが感じられる学習にしたい・・・</p> </div> <p>本日4時間目、音楽室に行ってみた・・・。実際は「やりたい子ばかりではない」</p> <p>そのために・・・高島先生が心がけてきたこと</p> <p>ポイント☆1 子どもたちと気持ちが離れないように、音取りなどの基礎的なことを楽しくできる工夫</p> <p>ポイント☆2 先生の表情を子どもたちは見抜く。音楽の喜びを子どもたちに伝えよう</p> <p>※拡大楽譜に集中させるか、手元の楽譜を見させるか、潔く決めるのも大事。</p> <p>※曲との出会い「よ～～く聴くんだよ、あとで気づいたことを言ってもらうからね」〔音源は選ぶ〕</p> <p>※前に出して歌わせる子はだいたい同じレベルにする。</p> <p>※曲の特徴をとらえるときに、子どもがひっかけりそうなところを取り上げる。</p> <p>※拍打ち→指揮につながる。(打点まで下げるスピード、打点を打った後の上がるスピード)</p> <p>※曲の出だしがそろわないときは、リズム打ち。言葉のまとまりには、母音唱。</p> <p>※フレーズは教える(続く感じ・終わる感じ)フレーズの処理を丁寧に、次の人に優しく手渡す感じ。</p> <p>2 研究授業構想 提案者 仁田峠 洋子 (荏田南小)</p> <p>第6学年 学習の主題「曲想を生かした表現を工夫して歌おう」</p> <p>中心教材「あすという日が」 山本 櫻子 作詞 八木澤教司 作曲</p> <p>参考教材「命あるかぎり」 宮越由貴奈 原作 若松 歆 作詞・作曲</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6年生が、学年末のいろいろな行事で歌えるように選曲した。</li> <li>曲との出会いで、「なぜ、こんなに広まったのか？」と投げかけ、この曲の良さに迫りたい。「被災地でね・・・」とどこまでの話をするか、考え中。山本櫻子さんのメッセージがあるので、それを活用して、歌詞の意味を考える手立てとしたい。</li> <li>・四時間扱いで、二、三時間目にクラスを二つに分けて、グループで練習する。</li> <li>・曲の出だしで、だんだん音が高くなる場所の表現について教科書に強弱記号はないが、意識して歌わせたい。本時は、「なんて、なんて・・・」から「あすという日があるかぎり～」を扱う。</li> <li>・本時のグループでの工夫をどう扱うか、考え中。</li> <li>・〔共通事項〕は、強弱・変化を入れる予定。</li> </ul>					

